

自己評価結果公表シート（令和6年度）2024年度

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・教育理念に基づいた子どもの経験と活動を大切にし、子どもたちにとって自律的、主体的に活動することが出来る保育とは何かを考え、継続性をもって保育カリキュラムの見直しを図り、計画をたてる。
- ・教職員、補助教職員ともに、一人ひとりが主体的に学ぶ意欲を持ち、研修や会議などで意見交換を重ね、教職員全体の資質向上に繋げる。
- ・預かり保育の体制を見直し、保育環境や内容を整えていく。
- ・地域と園がつながり、保育活動や保護者交流にいかせるような取り組みを考えていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育者の修養研鑽 園内研修やチームごとで学び 語り合う土壌づくり	<ul style="list-style-type: none">・経験年数や所属に合わせた外部研修に参加し、学んだ事柄を園内で共有または実践する機会を大切に。自ら同僚に働きかけることで自身の教員としてのプロ意識を向上させ、全体の質の向上に努めた。・1年目メンターを引き続き配置し、新任教職員が園の一員として園理解を深められるよう研修の年間計画をたて行った。・若手教職員の積極的に保育に入る機会を作り振り返りの時間を設け、向上心を育てよう努めた。
教育理念に基づいたカリキュラムの実践	<ul style="list-style-type: none">・行事では生活発表会について重点的に振り返り、育みたい子どもの姿やクラスの活動について改めて見直しを図った。学年ごとや職員全体で振り返りや意見交換を重ねながら保育実践を進めた。名称も「表現あそび会」に改め、子どもたちがより一層、主体的、協同的にとりくみながら、一人ひとりがのびやかに表現できるような活動内容につなげていくための新たな一歩として実施することができた。・保護者との保育の共有にも力をいれ、1年間を通してクラスでの日々の取り組みの様子やねらい、子どもの姿を動画や写真に収め、ブログや動画配信を行った。会議や園内研修等で振り返りの時間を設け職員間で学びを深めながら活動を見直したりした。
保護者と園がつながる新しい 取り組み	<ul style="list-style-type: none">・メール配信システム（新しいアプリ）を導入し、日頃園で過ごす子どもたちの姿を保護者に向けこまめに発信するようにした。・コープ東豊中店と協力して保護者向けのソーセージの飾り切り体験や、スパイスカレー作りなどのイベントを実施した。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none">・地域の方に多く知ってもらえるよう、情報発信のための新しいツールの利用を始めた。また、りんごらんどの内容を一新し、気軽に参加できるものに変更した・在園児弟妹預かり事業の拡充に取り組んだ。また、小学生の放課後ルームを5年ぶりに再開した。

職員の研究参加、実践発表、公開保育など	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に外部研修に参加することや、これまでの保育実践や経験をいかして、研修会での発表やプロジェクトに参加するなどの機会を持つことができた。(母校での講演、マネジメント研修の発表、預かり保育のポスター発表、実践学会の参加、大私幼31次プロジェクト参加、ECEQコーディネーターの参加など) これからの幼児教育につながる研鑽を深めることができた。 ・他法人の教職員の園見学の受け入れを行い、教職員交流を図り、自園の取り組みや他園の取り組みの意見交換を通して保育や子ども理解を深めることができた。
幼保こ小の連携、合同研修での公開保育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・豊中市幼こ保小夏期合同研修では分科会1を担い、夏休みに保護者の方々の協力のもと、自園において公開保育を実施した。 ・豊中市の多くの教職員が集い、幼児期の子どもの育ちについて幼こ保小の教職員理解や学びを深める時間となった。各施設の教職員間において小学校進学への円滑な連携を意識し深める時間となった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

行事やカリキュラムの見直しでは、旧態依然にとどまることなく、これまでの良さを残しながらも行事の目的を明確にし、子どもたちが主体的に参加できるよう、新たな取り組みを提案したりしながらより意義のある経験となるよう保育実践に繋げていくことができた。

また職員の研鑽においては研修会や実践発表などを通して、それぞれの職員が知識や見識の幅を広げ、教員一人ひとりのスキルアップや同僚性の向上、保育内容の充実に活かすことが出来た。

乳幼児子育て世代のニーズに合わせた子育て支援事業の充実と拡大を図り、地域の乳幼児子育て世代と園がつながる環境を整えた。

危機管理においても非常災害時に備え、様々なシチュエーション(火災・地震・不審者対応など)を想定した自主訓練を積極的に行い、職員の連携がとれる体制を確認し、危機管理意識が高められるようにした。今後も全職員の研鑽や共有の時間は園の保育の質や保育者のチームワークを高めていくためにも大切にしていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

◇職員一人ひとりが子どもを理解する視点を深めていくことができるよう、十分に語り合う時間を作る。

◇保護者と園が交流できるような取り組みを考えていく。

◇職員の休憩時間の確保、業務効率の改善、残業時間の削減などに引き続き取り組んでいく。

◇InstagramなどのSNSを活用し、地域の子育てされている方や学生の方に向けて本園の情報を発信していく。

◇子育て支援事業の拡充。

6. 学校関係者の評価

本園における近年の取り組みは、園の理念を根ざした着実かつ意欲的な実践に支えられており、地域の教育保育の中核を担う施設のひとつとして質の維持向上がなされている。

今年度も職員一人ひとりが保育者としての誇りを持ち、自己研鑽に励み、日々の保育実践にその成果を反映させている点は特筆すべき点であり、定期的な園内外研修の参加や自主的な学びあいの文化が育まれており、保育の質向上につながっている。また行事でも「なんのために行うのか」という原点に立ち返り、子どもの育ちにとってより意味のある形へと見直しが図られ、子どもを中心とした保育観に基づいた実践へと磨かれている。子育て支援についても地域のニーズに合わせて内容を工夫しており、保護者の関係づくりを大切にしていくことは、日々の保護者の安心や信頼関係の構築につながっている。これらの取り組みは今後の運営のモデルにもなり、本園の教育、保育に対する真摯な姿勢と高い専門性を感じるもので、これからも振り返りや課題に向き合いながら子どもたちと共に歩むあたたかな保育教育の実践をすすめられていくことを期待したい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。